

場所を表す形式名詞の用法と制限

主要部名詞としてのアタリとトコロ

言語学・応用言語学専門分野 1LT12087E 塚元博子

1. 「アタリ」と「トコロ」の置換可能性

- (1) a. 周りに内緒で準備を進めるアタリが彼らしい
b. 周りに内緒で準備を進めるトコロが彼らしい
- (2) a. この町は住人が減ってきていて、そのアタリが少し寂しい
b. *この町は住人が減ってきていて、そのトコロが少し寂しい
- (3) a. *見返りを求めない健気なアタリが彼女らしい
b. 見返りを求めない健気なトコロが彼女らしい
- (4) a. 窮地に立たされても決して諦めないアタリ、彼の粘り強さを感じる
b. *窮地に立たされても決して諦めないトコロ、彼の粘り強さを感じる
- (5) 本論文で取り組んだ問題：
形式名詞アタリとトコロは、それぞれどのようなときに主要部名詞として使用可能で、どのようなときに使用不可であるのか
- (6) 結論：
 - a. 形式名詞アタリに形容詞（ただし、ナイを除く）・連体詞・格助詞ノが前接する場合、また、ガ・ヲ・ニ以外の格助詞が後接する場合、アタリ文の容認性が制限される。
 - b. 形式名詞トコロにガ・ヲ・ニ以外の格助詞もしくは読点が後接する場合、トコロ文の容認性が制限される。

2. アタリ文について

（ナイ以外の）形容詞が前接する場合

- (7) a. *他人の失敗を責めない心の広いアタリが彼らしい [イ形容詞]
b. 忙しいのに仕事に全くミスのないアタリが素晴らしい [イ形容詞・ナイ]
c. ?見返りを求めない健気なアタリが彼女らしい [ナ形容詞・形容詞的] (= (3a))
d. ?彼の、何事にも動じない大人なアタリを見習いたい [ナ形容詞・名詞的]

連体詞が前接する場合

- (8) ?他人の失敗を責めない器の大きなアタリが彼らしい

格助詞ノが前接する場合

- (9) ?この町は住人が減ってきていて、そこのアタリが少し寂しい (cf. (2a))

ガ・ヲ・ニ以外の格助詞が後接する場合

- (10) a. ?彼の場合、朝寝坊を頻繁にするアタリから改善が必要だ
b. *周りに気を遣って振る舞うアタリよりありのままにいる方が彼らしい
c. *彼は周りに内緒で準備を進めるアタリで一目置かれている
d. *彼の場合、朝寝坊を頻繁にするアタリまで改善が必要だ
e. ?彼の無責任に振る舞うアタリへ怒りの矛先を向ける
f. ?彼の無責任に振る舞うアタリと折り合いをつける

3. トコロ文について

ガ・ヲ・ニ以外の格助詞が後接する場合

- (11) a. ?彼の場合、朝寝坊を頻繁にするところから改善が必要だ
b. *彼は周りに内緒で準備を進めるところで一目置かれている
c. *周りに気を遣って振る舞うところよりありのままにいる方が彼らしい
d. *彼の場合、朝寝坊を頻繁にするところまで改善が必要だ
e. ?彼の無責任に振る舞うところへ怒りの矛先を向ける
f. ?彼の無責任に振る舞うところと折り合いをつける

読点が後接する場合

- (12) a. *窮地に立たされても決して諦めないところ、彼の粘り強さを感じる (= (4b))
b. 窮地に立たされても決して諦めないところに、彼の粘り強さを感じる
(13) a. 窮地に立たされても決して諦めないアタリ、彼の粘り強さを感じる (= (4a))
b. 窮地に立たされても決して諦めないアタリに、彼の粘り強さを感じる

参考文献

青木三郎(2000)「<ところ>の文法化」青木三郎、竹沢幸一(編)『空間表現と文法』pp.77-103. 東京：くろしお出版

益岡隆志・田窪行則(1995)『基礎日本語文法 改訂版』.6. 東京：くろしお出版

日本語文法研究会(2009)『現代日本語文法 2』. 東京：くろしお出版

佐竹秀雄(1990)「読点の打ち方-実例分析(文章作法便覧 すぐ役に立つ文章の書き方

早分かり!) (技法焦点)」『国文学解釈と教材研究』第35巻, 第15号, pp.73-77.

田窪行則・笹栗淳子(2002)「日本語条件文と認知的マッピング」大堀壽夫(編)『認知言語学 : カテゴリー化』. pp.135-161,

東京：東京大学出版会